

都中英研だより

東京都中学校英語教育研究会
会長 平岡 栄一
(葛飾区立常盤中学校)

都中英研の人材育成で組織を活性化させる

東京都中学校英語教育研究会 会長 平岡 栄一



令和6年度東京都中学校英語教育研究会（以下、都中英研）会長を昨年度に引き続き拝命いたしました葛飾区立常盤中学校長 平岡栄一です。日頃より都中英研の活動につきまして、多くの皆様に御理解・御協力を賜り、深く感謝申し上げます。本会の歴代会長、各部長をはじめとする部員各位が蓄積した素晴らしい成果を基盤として、都中英研のさらなる充実・発展のために皆様とともに一層努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度も、おかげさまで各部の研究会・研修会等が活発に開催されています。対面を基本としつつ、オンライン方式の利点も踏まえ、また小・中・高・大の効果的な連携から教員養成や教員育成へとシームレスに繋げる試みも進みつつあります。

都中英研は東京都教育委員会研究推進団体の認定を受けた研究会で、会の目的は、中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に英語教育の振興を図ることとしています。この目的を達成するために、本会では次の5つの事業を行っています。

- 1 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
- 2 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
- 3 研究活動（英語教育に関わる基礎的・発展的、実践的な課題解決）
- 4 各種英語教育団体等との連携・協力
- 5 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

また、今年度の重点目標は次の3つです。

- ① 全学年で実施するスピーキングテスト（ESAT-J）を始めとする都の事業において、東京都教育委員会と連携すること、また東京方式少人数・習熟度別指導を充実させ、授業改善を実現することで生徒および教員の英語力を高めること。
- ② 「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」他関連機関、Global Education Network 20 指定校や、東京都立高等学校英語教育研究推進校との連携を進め、小・中・高・大学等の学びを円滑に接続できるようにすること。
- ③ 「個別最適な学び」、「協働的な学び」が共に充実し、将来の第一級の英語力に確実につながる効果的な授業等が東京都全体で展開されるように対話や協働をすること。

都中英研会員各位、また御関係のあらゆる皆様におかれましては、各自のすべきこと、また実現したいこと等を互いの協力により、ゆったりとした気持ちで、堂々と達成し、組織の一員としてまた個人として充実した日々をお送りいただけたらと願っています。

最後に、持続発展する東京や日本、そして世界を支えるかけがえのない、しなやかでたくましいグローバル人材の育成のため引き続き、皆様の変わらぬお力添えを賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

各部サマ－ワークショップ 報告

事業部

- 日時：令和6年8月26日（月）13：00～16：30
- 会場：東京都立豊多摩高等学校 本校舎 2F 大会議室
- テーマ：『小・中・高・大 実践事例集とその展望』
～英語発信力の強化を図る校種間の円滑な接続を目指して～
- 内容等
 - ・東京型グローバル人材育成モデルの理念と英語授業について講演
講師：東京都教育庁グローバル人材育成部 指導主事 宮本 司様
 - ・AI を活用したスピーチ指導・採点(AKA 株式会社)
 - ・小中高大接続の実践報告
発表者：立川市立第七小学校 校長 島村 雄次郎
千代田区立九段中等教育学校 主任教諭 黄 俐嘉
東京都立豊多摩高等学校 主任教諭 亀田 洋斉
順天堂大学国際教養学部教職課程研究室 客員教授 佐藤 ひろみ

事業部では、今年度も英語発信力の強化を図る校種間の円滑な接続を目指して「小・中・高・大 実践事例集とその展望」というテーマでワークショップを開催しました(会場とオンライン参加者で約 60 名)。

東京都教育庁グローバル人材育成部から東京都教育委員会の重要な施策であるグローバル人材育成事業についてご説明いただきました。また、ESAT-Jに関する情報提供やデータ分析(解説)も御講義いただきました。以下に、各校種の実践(概要)を報告いたします。

小学校における外国語教育については、島村先生からは、三鷹市における小・中の相互乗り入れ授業の紹介をしていただきました。中学校の先生方が小学校への授業サポートをしていただけること、発音やパフォーマンステストの実施に関する専門的な支援が得られることがメリットであるという話がありました。また、小学校での指導を生かして中学1年生の授業をスタートできる指導の連続性や、校種を限定しない英語指導方法の連携について報告いただきました。さらに、足立区新田学園における国際コミュニケーション科での異学年交流・海外交流について知ることができました。

中等教育学校における外国語教育については、教科書本文を活用したスキットや自己表現活動などの授業実践の紹介がありました。授業中の生徒の発表活動の様子を動画で視聴することで、普段の指導の様子や学習成果としてのパフォーマンスの高さを観察することができました。

高等学校では、単元指導計画の組み立て方や学習指導要領に則ってどのように4技能5領域を伸張させていくかについて発表がありました。生徒によるデモンストレーションも行われ、学習指導要領をよく踏まえ、意図を明確にして指導過程を工夫することで、大きな成果につながる授業の様子がよく分かりました。

大学における外国語教育については、佐藤先生と教員志望の学生によるディスカッション形式での授業やカリキュラムの説明があり、小学校から高校までの学びをさらに昇華させる必要性を感じました。

来年度も継続したテーマでサマ－ワークショップを開催する予定です。今年度を踏まえ、さらに各校種で連携を深め、来年度へと実践が繋がられるようにしてまいります。

調査部

- 日時：令和6年8月20日（火）10：00～16：30
- 会場：東京都立桜修館中等教育学校
- 内容等
 - ・講義「『コミュニケーションテスト』のスペックから問題作成へ ～聞くこと～」
 - ・テストづくりワークショップ
前半：テスト問題づくり(1学期の定期考査をもとにグループごとのスペック・テストづくり)
後半：全体発表と講師助言
- 講師：玉川大学文学部英語教育学科 教授 工藤 洋路 先生 (講義・ワークショップ助言)
都留文科大学非常勤講師ほか 本多 敏幸 先生 (ワークショップ助言)

調査部は、昨年度よりコミュニケーションテストの作成と実施・夏季ワークショップの2本立てで活動しています。昨年度は試行の段階として部員の所属校に限定しコミュニケーションテストを実施しましたが、今年度から希望される学校すべてで実施していただけるようになりました。また、参加された学校の先生方が夏休み中に調査部員とともにライティング問題の採点をする研修会を開き、ルーブリックを用いた採点法について共に学ぶ機会としました。

一方、夏季ワークショップでは、玉川大学の工藤洋路教授による「聞くこと」の領域でのテスト作りの講義を拝聴後、各参加者に持参いただいた定期テストのリスニング問題について調査部員がファシリテーターとなりグループ別に検討を行いました。各グループが、検討した問題から1題を選択し改善したものを全体の場で発表しました。工藤先生・本多先生から各発表について明瞭で具体的なアドバイスをいただきました。(参加者 54名)

研究部

【第1回】

○日時・会場：7月31日(水) 大田区立志茂田中学校

○内容・発表者

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ①特別支援学級におけるプロジェクト型指導の実践 | 五井 沙織 (板橋区立高島第一中学校) |
| ②はじめてみよう Try Out 活動! | 小澤 美沙姫 (杉並区立泉南中学校) |
| ③発信語彙を拡げる主体的で対話的な学びの実践 | 長谷川 眞司 (小平市立小平第三中学校) |

【第2回】

○日時・会場：8月5日(金) 杉並区立泉南中学校

○内容・発表者

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ①まとまりのある文を書き、話すことへつなげる工夫 | 福島 恵子 (清瀬市立清瀬第五中学校) |
| ②主体性を引き出すディスカッション指導の工夫 | 多田 翔 (江東区立第三砂町中学校) |
| | 竹元 智子 (葛飾区立桜道中学校) |
| ③即興で話す力を高める授業実践 | 松野 麻里恵 (港区立三田中学校) |
| | 前田 宏美 (新潟青陵大学) |

第21回研究部ワークショップは対面会場で2回実施しました。参加者数は第1回85名、第2回98名でした。2回のワークショップで8名の研究部員が実践発表をしました。

第1回は、特別支援学級での実践、発信型の授業における展開方法、語彙指導がテーマとなり、参加者の関心が高く、様々な意見交流が見られました。第2回は、英語が苦手な生徒へのライティング指導、即興的な言語活動の展開に関する実践発表があり、模擬授業を交えたインタラクティブな研修が行われ、参加者にも積極的に関わっていただきました。発表者も多くのフィードバックをいただく機会となりました。

プロジェクトチーム部

○日時：令和6年8月22日(木) 13:30~16:10

○会場：墨田区立吾嬬立花中学校

○内容等 ①PT部員による実践報告 発表者 渡邊 良亮 (町田市立鶴川第二中学校)
村山 幸広 (江戸川区立二之江中学校)

②講演・ワークショップ

『音読指導から書くことの活動へ 一生徒が書きたくなるライティングの指導と評価』
講師：文教大学国際学部国際理解学科 教授 阿野 幸一 先生

プロジェクトチーム部では、8月22日にPT部員による実践報告と文教大学阿野幸一先生をお招きし『音読指導から書くことの活動へ』のテーマで夏季ワークショップを実施いたしました。雨天の中、85名の先生方に参加していただき、「音読の重要性から評価についてまですぐに実践できる」「書くアイデアを広げていくためにやりとり・発表から始めること、子どものやる気を高める指導をすること、インプット⇄インテイクを繰り返して初めて書くというアウトプットができるようになることは目から鱗が落ちる思いでした」「減点法から加点法へできることを伸ばす指導を参考にしたい」などの感想を多数いただいております。今後もプロジェクトチーム部では『音読指導から書くことへの活動』の研究を通して、生徒の英語運用能力を育てていきたいと考えています。

中英研 各部の紹介

総務部

総務部は、中英研各部との連絡調整、都内各校へのお知らせ、関係団体や機関(全英連や関ブロ、東京都教育委員会等)との連携協力を主に行っております。各校に連絡する際は、各地区幹事様に大変お世話になっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

連絡先：板垣 繁（葛飾・上平井中）

調査部

調査部では、「コミュニケーションテスト」と銘打ったテスト問題を作成することで、広く東京都の先生方に、より実生活の場面に即した英語力を見取れるようなテスト作りを提案しています。また作問・採点の活動を通して、部員の先生方が観点別・領域別の評価について研修する機会としています。

一方、年間通しての作問活動とは別に、夏にワークショップを実施しています。先生方が作成した定期考査問題を持ち寄り、観点到合った適切なテスト問題であるか、どうしたらより妥当性の高い問題に変えることができるかを参加者同士で検討し、講師の先生から助言をいただいています。

評価について研究し、日頃の指導と評価の一体化を図りたい先生方、到達目標を想定しそれに向けた授業の在り方を学びたい先生方、ぜひ調査部に参加してみませんか。

連絡先：荒川高広（都・桜修館中等教育学校）

プロジェクトチーム部

『指導場面に応じた音読指導の開発』というテーマのもと、具体的な音読指導の方法について研究を行っています。今年度は、音読指導から書くことの活動について研究を進めています。

連絡先：佐藤善明（西東京・ひばりが丘中）

事業部

事業部では、若手教員の授業力向上を事業部員が率先垂範で公開し、指導方法の成果を普及・啓発しています。令和6年度は、部員増による人材育成に取り組むとともに、東京都全域での部員同士の触発を図ることを活動方針に掲げています。特に、小、中、高、大の連携を図り、一貫教育の推進に取り組みます。具体的な事業として、「サマーワークショップ」「授業力アップ研修会」「英語学芸大会のハイブリッド（オンライン形式と集合形式）」を企画・運営しています。

連絡先：稲葉高広（町田・成瀬台中）

研究部

部員数23名。毎月1回の部会を実施しています。研究テーマは「英語で書きたかったけど書けなかった語」の語彙リストの作成と活用、「ICTを活用した語彙指導の実践」です。2月21日に、研究発表会・公開授業を予定しています。

連絡先：溪内明（文京・本郷台中）

出版部

都中英研の機関誌「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を主に担当しています。年3～4回、対面を主とした部会を行っています。編集会議や発行に向けた作業、部員相互の授業参観などを行っています。また、校正作業や情報交換には、オンラインを活用しています。部員の、「授業でこんなことに悩んでいて…」といったつぶやきや、「〇〇先生の講演/研修がすごく勉強になった!」といった声が、「だより」や「会報」の企画に繋がっていきます。

連絡先：今本由美子（立川・立川第三中）

編集後記

「都中英研だより 78号」をお届けします。今号では、会長あいさつ、サマーワークショップの様子その他、各部の活動内容等を紹介させていただきました。興味をもたれた方、活動に参加してみたいと思われた方は、各部窓口までご連絡いただければと思います。今後のワークショップ等については、都中英研HPで随時ご案内をしていきますので、そちらもぜひご覧ください。

本誌に関する
お問い合わせ先

都中英研出版部長 今本 由美子（立川市立立川第三中学校 校長）
TEL：042-523-4348 FAX：042-529-1015